

# OUR WONDER

沖縄こどもの国



〒904-0021 沖縄市胡屋5-7-1 Tel: 098-933-4190

HP: <http://www.okzm.jp>   

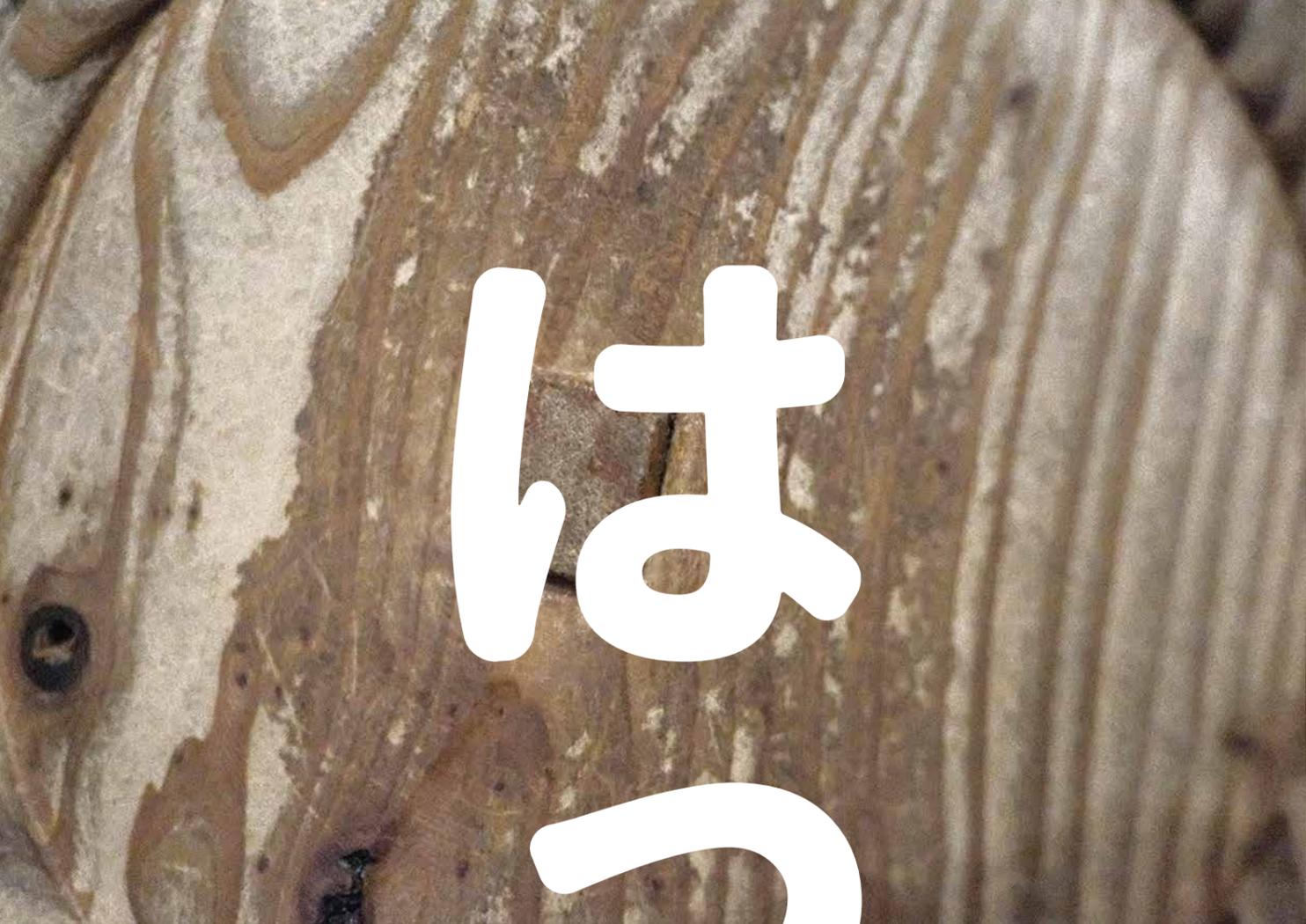
「OUR WONDER 沖縄こどもの国 ワンダーミュージアム コンセプトブック」(開館15周年記念企画)

発行日: 令和2年3月〇日 / 企画・制作: ワンダーミュージアム / 発行: 公益財団法人 沖縄こどもの国 /

デザイン: 内間 桃花 / 制作協力: 熊井 晃史

沖縄こどもの国 ワンダーミュージアム コンセプトブック





はっ



わっ



!!



!!



# 理解と創造は 驚きに始まる

「理解と創造は驚きに始まる」

それはワンダーミュージアムが大切にしてきたコンセプトでもあり、  
名前の由来でもあります。

でも、理解と創造が始まる驚きとは、どのようなものなのでしょうか？

ギリシャ語には「タウマゼイン」という言葉があります。  
何だろう？ 解き明かしたい！ 美しい！ 近づきたい！ 探求が生まれる驚き。  
遠い昔から、人々はそんな心の動きを大切にしていました。

ワンダーミュージアムは、まさにそんな驚きが生まれる場所。  
沖縄初・沖縄唯一のチルドレンズミュージアムとして誕生し、15周年を迎えました。

そこで、これまでをふりかえりながら、より豊かなこれからをつくっていくために、  
心新たに、わたし達が大切にしてきた「ワンダー」についてまとめました。

はじめましての方へ、お久しぶりの方へ、いつもありがとうございますの方へ。  
みなさまへ、わたしたちからのきつといつもとは違った自己紹介ができていますはずです。

ワンダーミュージアム一同





# 数字でふりかえってみました

ワンダーミュージアムへの来館者数

のべ **2,181,862**名

2018年に入館者  
200万人を突破!



ワークショッププログラムの種類

**885**プログラム

ワークショッププログラムの実施回数

**14,479**回

どんだけ  
やってるんだーい!(驚)

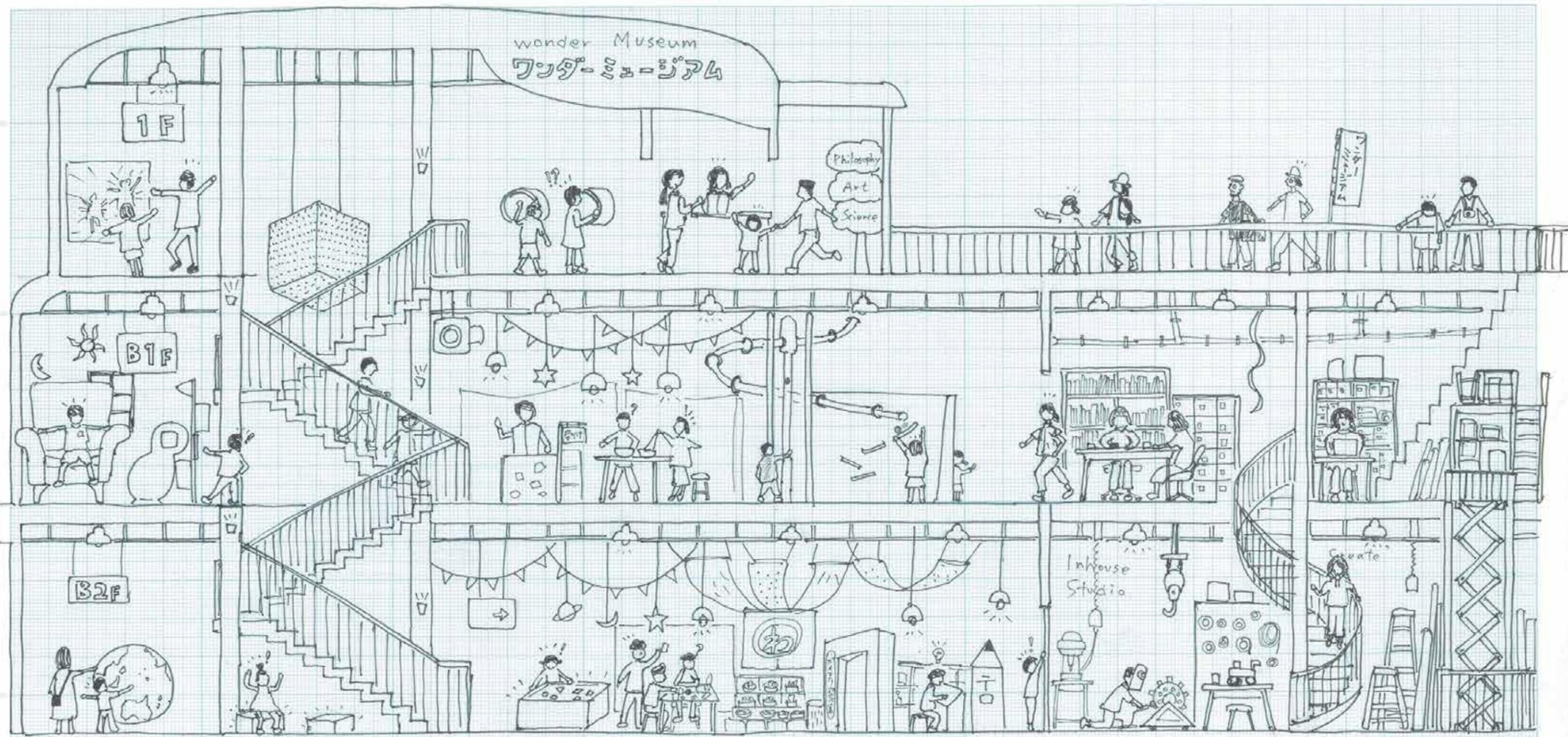
ワークショッププログラムへの参加者数

のべ **673,426**名

こんなにたくさん!  
すごいな~

\*2004~2018年度





# 毎日、ワンダー

ワンダーミュージアムには、ワンダーがあふれています。

こどもたちの。保護者の方の。

関わってくださるクリエイターや教育関係者の方々の。そして、わたしたちの。

15年の活動の蓄積は、もちろん数字だけでは表せない、  
さまざまなエピソードにあふれています。

まさに、毎日がワンダーです。

そんな日々がこれからも続き、さらなる進化をしていくために、  
感謝をいっぱい、日頃のワンダーミュージアムの様子をご紹介します。

ゴジラー、



あのね、





# 驚きは どこから 来るのか？

理解と創造がはじまる驚き。

それは、個々に、その都度別々のあり方で訪れます。

それは時にとっても静かに。時にお祭りのように。

物に触れる。何気ない会話をする。

材料や道具を眺める。一步踏み出してみる。

ワンダーミュージアムには、

そんな小さくて（でも大きな）きっかけがたくさんあります。

驚きを通した、わかりたい！つくりたい！という気持ちは、

身の回りの世界に主体的に関わるという態度そのものを育みます。

こどもたちはきっと、何よりもそんな自分の広がる可能性に

驚いているのかもしれない。



# こどもたちを ひとりの 個人として みること

伝えたい。挑戦したい。喜び合いたい。

驚きは、色々な心の動きを生むスイッチになります。

そのスイッチは、わたしたち大人も一緒に  
驚きを分かち合う事で、よりよく働きます。

お客様とスタッフ。教わる人と教える人。

一緒に驚き合う時間の中では、そのような関係を超えた、  
ちょっと不思議な連帯感も生まれます。

こどもたちを、まず一人一人の人格を持った個人として向き合う事。  
そのような眼差しこそが広がり、深まる事。

ワンダーミュージアムではそんな日々の営みを積み重ねています。



# 人をつくる、 環境をつくる、 沖縄の未来をつくる

驚きは、遊びのようで学びのようで、

当たり前のように不思議のようで、かけがえのないもの。

驚きは、始まりのしるし。

驚きは、これからのための原点。

沖縄こどもの国が掲げる

「人・環境・沖縄の未来をつくる」という理念。

ワンダーミュージアムは、

それを実現するための1つの拠点です。

こどもを大切に。大切にすべきことを大切に。

驚くということは、自分を、周りを、

信じぬくということかもしれません。

それこそが、未来を切り拓いていくための原動力になるはずです。



毎日、  
驚いてる？



# わたしたちについて

美術・科学・工学・教育・保育・福祉など、  
様々なバックグラウンドや専門性を持つスタッフが  
ワンダーミュージアムに集まっています。

なかには、かつてはお客さんとして、今は担い手として、  
ワンダーミュージアムへの関わりを変えていくメンバーもいます。

そんなわたしたちは、お互いに刺激し合いながら、連携しながら、  
大きく三つのチームに分かれて活動に取り組み、経験を積み重ねています。

## 運営 チーム

来館者の方々と展  
示物の出会い方を  
最適なものにして  
いくために、様々  
なコミュニケーションをつくる

## ワーク ショップ チーム

心も頭も体もつか  
い、想像力と創造  
力を刺激するため  
の様々な体験をつ  
くる

## 工房 チーム

展示物の制作やメ  
ンテナンス、空間  
やグラフィックデザ  
インなど、様々な  
形をつくる



試験管を使った色水の実験したときなんですけどね、終わった後の  
こどもたちの話を聞いていたら、「科学者になりたい」という子も  
いれば、「色がとても綺麗だったからアートに関することがしたい」  
という子もいて、さらには「試験管がかっこいいから、試験管を作る  
人になりたい」という子もいて、同じものを見て、こんなにも見方が  
違うのか、と。驚きには、正解とか不正解とか  
ないんですよ。

作るってというのは  
全然違いますよね。

自分で作りたいものを  
作るのではなくって、  
それに、誰かに言われたものを  
かなと思うんです。  
気持ちの湧いてくるんじゃない  
今ここでつくりたいという発想や  
いろいろな素材や道具に囲まれると、

「インチキ占い」のプログラムだと、こども  
たちと一対一になれるんですよ。多人数が  
参加できるワークショップも大切にしたい  
ですし、一人一人ときちんと  
向き合える時間も大切に  
したいんです。そもそも、こどもたちに  
自分を信じる気持ちを持ってもらうために、  
「占い」という切り口を選んでいるんですよ。

プレイヤーの毎日にも、ワンダーな出来事があふれているのです♪

障がいをもった  
お子さんを連れて  
いらっしゃる保護者の  
方から、「こどもが  
走り回ってほんと  
すみません」って  
謝られるんですね。  
でも、大丈夫ですよ！  
ここでは  
こどもたちの  
気持ちをまずは  
受け止めたい  
んですよ！  
って。  
結構、保護者の方と  
ハイタッチしますね。  
うちの子、  
スペシャルキッズ！  
いえーい！！！！って(笑)

鏡を使ったワークショップで、こどもが何気なく  
「ネコも鏡に映るんだ」っていうんです。  
そういう発想もあるんだ、ってこちらが新鮮ですよ。  
そんなの当たり前じゃんって  
頭ごなしには絶対言いたくないですよ。  
その子なりのきつと大きな驚きと発見があったはずなんです。

こどもたちは大人以上に、ワンダーミュージアムの  
掲示物を見ていたりします。周りをよく観察しながら  
遊んでいるんですよ。

時に、こどもたちと一緒に遊ぶし、つくるんです。  
本当の意味で交流するんです。  
帰り際に、「また来るからな！」って挨拶される  
わけです。

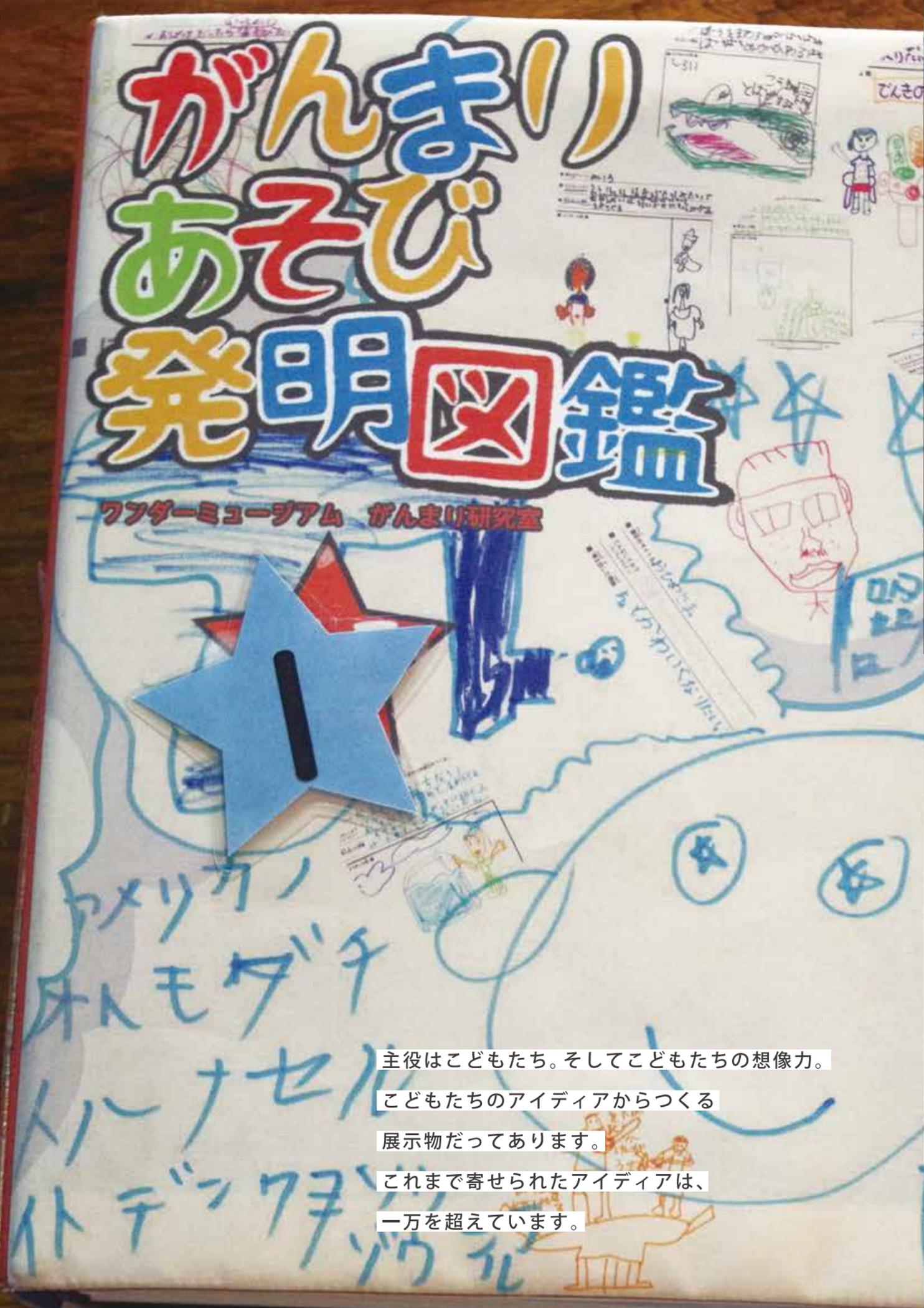
危険なことをしているこどもたちにはもちろん注意はしますが、よっぽどのが  
ない限り「何しているのー？」って挨拶のような感じで声をかけますよね。やっぱり  
こどもたちなりの理由がそこにはあったりもするんです。  
そうすると、そこから深いコミュニケーションが生まれたりもしますよね。

2〜3歳のこどもが、一人で試行錯誤しながら、展示の遊び方を発見して  
いました。何だかとても尊いものを見せてもらったような気になって。  
その子の保護者の方にも、「一人でやり方を発見したんですよ！やり遂げ  
たんですよ！」と伝えて一緒に喜びたくくなりますよ。

それぞれが自由にじっくり集中している。

そんな穏やかな時間がながれます。



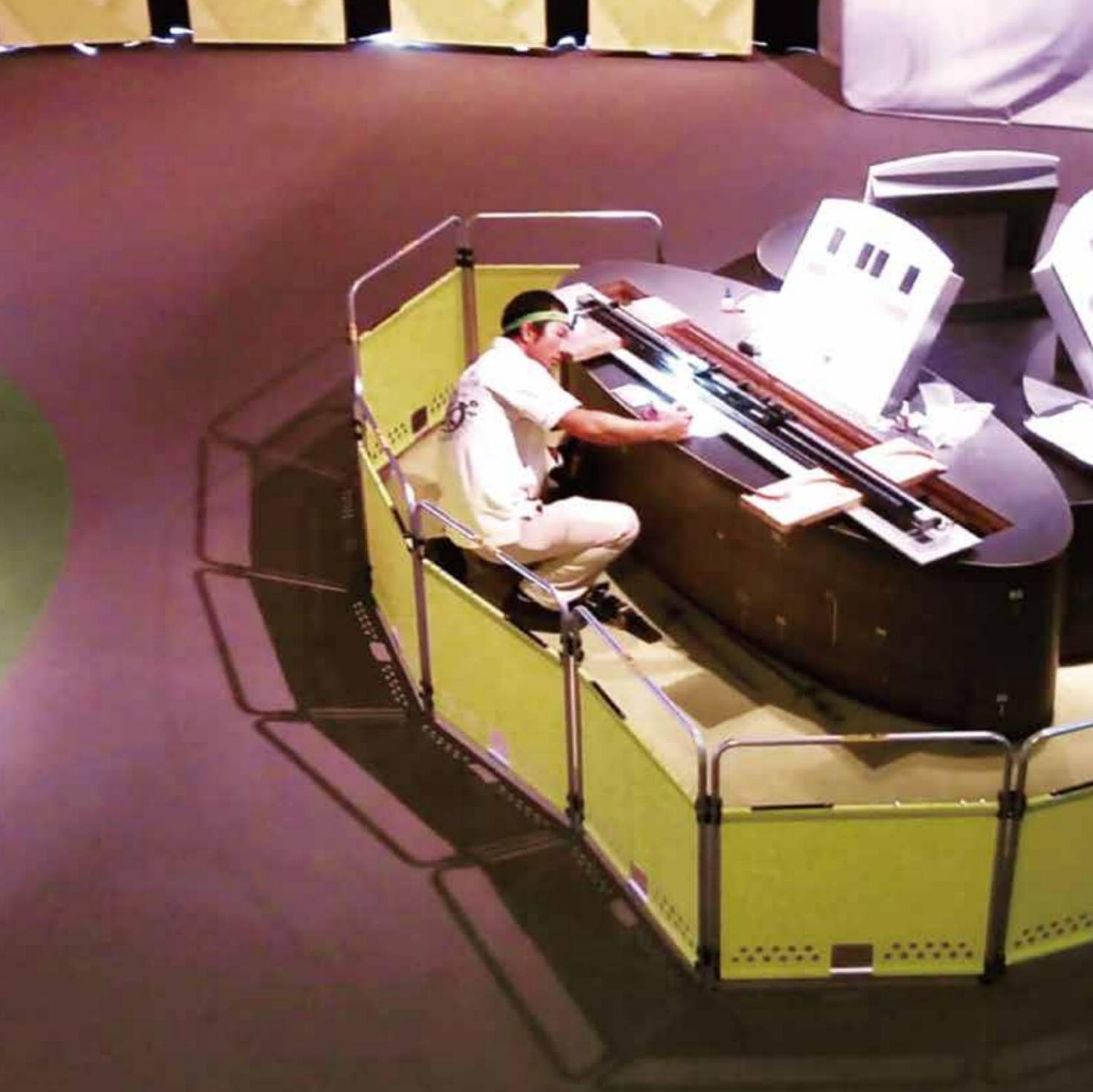


ワンダーミュージアム がんまり研究室

主役は子どもたち。そして子どもたちの想像力。  
子どもたちのアイデアからつくる  
展示物だってあります。  
これまで寄せられたアイデアは、  
一万を超えています。



イベントも子どもたちと一緒に作る。  
子どもたちから、おぼけを募集してつくるおぼけやしき。  
毎年数千のアイデアが寄せられ、当日も大人気！



わたしたちは、  
自分たちで展示をつくったり  
メンテナンスもしています。  
時に、そのプロセスや  
大人の背中を見せる環境も、  
驚きの源泉となります。



時に、裏側を見ること、  
裏方になること。  
そんな機会にも  
多くの驚きと  
学びがあるはずです。

# あのひとのワンダー

こどもたち、保護者の方々はもちろんのこと、  
クリエイターや教育関係者の方々など、  
ワンダーミュージアムは多くのコラボレーターに支えられています。

15周年を記念して、  
大切にしたいワンダーについて、こどもたちへのメッセージについて、  
所縁ある方々に、コメントを頂きました。

あなたにとってのワンダーとはなんですか？  
こどもたちにとって大切なことって何ですか？

わたしたちは、そんな問いをこれまでも・これからも  
大切にしていきたいと考えています。

沖縄の歴史、風土、色彩、文化。

ここだからできること、ここだから大切なこと。

これからも積み重ねていきたいと考えています。



あら かき しほ  
**新垣 志保** さん (草木染め作家)

自然の決まり事の中で表現を行う染色は、思いついてもできない事がたくさんあります。でも、できなかった時の「何でだろう？」は、たくさんの不思議への扉です。染色家の私は染め物の世界から扉を開けて、子供たちと一緒に向こう側の、「生き物」や「化学」や「遊び」の扉をノックします。時には向こう側から人が来て、私達は一緒に遊びます。沢山の不思議の扉を繋ぐ場所、ワンダーミュージアムはそんな場所だと思います。



いの うえ ゆみり  
**井上 祐巳梨** さん (STEAM JAPAN・編集長)

ワクワクするから、面白い。ワクワクするから、やってみたい。ワクワクするから、つくってみたい。STEAMにとっても重要要素となる「ワクワク」。ここワンダーミュージアムは、子どもたちのワクワクを思いっきり引き出し、そして子どもたちの可能性を信じる場所。ここは、たくさんのワンダーが生まれる場所。ワクワクを起点とした「知る」と「つくる」のサイクルであるSTEAM要素に溢れたこの場所が、ずっと子どもたちと共にあり続けますように。

お がわ おうじ  
**小川 櫻時** さん (SAKKAKU・映像作家)

ワンダーミュージアム15周年おめでとうございます！  
2013年から毎年、夏休みの「おばけナイトミュージアム」で子供達の描いたおばけを映像化して出現させるといっても愉快なお仕事をさせてもらっています。子供達の描くおばけの面白さ可愛さ斬新さに触発されながら、ミュージアムのスタッフと一緒に手を動かして試行錯誤しながら作りあげていくのが大好きで毎回楽しみにしています。これからも沖縄の子供達と一緒にワンダー！な空間を奏でる場であり続けて欲しいです。



こ はら けいと  
**小原 啓渡** さん  
(アートコンプレックス・プロデューサー)

ワンダーミュージアム。アートを感じる場所、そこには、体温があり、手触りがあり、血が通う場所。そこには、きっといろんな積み重ねがあったのだと思います。そんな場所がもっともっと全国に広がっていったらいいなと考えています。



す けやま なると  
**瑞慶山 成人** さん  
(デコールデザイン)

思いもよらぬ表現をする子ども達の存在自体がワンダーだないつも思っています。ワンダーミュージアムさんがやっているように、大人は、子どもがなるべく自由に創造できる場をつくる。子ども達からワンダーをもらいましょう。



は え あやこ  
**南風 亜矢子** さん  
(デコールデザイン)

わたしにとってのワンダーはいつでも自由に想像したり作ったりできること。子どもと一緒にワクワクできること。おとなも子どもも楽しいを一緒にできること。こんな自由でいいんだ！って思えるワンダーミュージアムでいてください^^

す ずき まどか さん  
(サイエンスパフォーマー・かがくママ・保育士)

初訪問の第一印象は「センスがいい！」でした。インハウス工房から産まれる制作物が持つ雰囲気は圧倒されました。そして、フロアスタッフにも大きな違いを感じました。それは、お客様との心の距離がとても近い！まるで親戚のように言葉を交わす姿に、大変驚きを感じました。そんな完璧にも見える皆さんも、裏に戻って「スタッフ」の殻を脱ぐと、悩みや葛藤を垣間見せてくれる…。そんな人臭さが、表舞台に立った時深い魅力としてお客様を引き付けているのだと痛感します。これからも皆さんは沢山の悩み、気付くはず！ワンダーのさらなる進化がとても楽しみです！



たか せ ゆうこ  
**高瀬 優子** さん  
(兵庫県立人と自然の博物館・子ども環境体験コーディネーター)

子どもたちと外で生きものを探していると、次々と発見したもの、不思議だと思うものを教えてくれます。子どもたちの周囲の世界に対する初々しい視線に触れると、自分も多くのことを当たり前と片づけて、世界をつまらなくしてしまっているのでは！とハッとします。子どもたちが安心してのびのびと想像し、創造できる世界であるために、おとなはどんな小さなことでも、当たり前、仕方ない、とあきらめず、できるだけ楽しく！チャレンジする姿を見ることが大事なのではないかと思います。





たま き まこと  
**玉城真**さん（うえのいだ）

ワンダーミュージアムは、いつ行っても家族みんなで時間を忘れて遊んでしまいます。子どもと一緒に楽しめる作品がたくさんあって、仕掛けはこうだ！とうちく語れて得意気になったり、光る物体を前に姉妹の年齢差関係なく楽しめたりと、大人も子どもも夢中です。建物中央にある螺旋階段を降りて暗闇に浮かぶ作品の光だけでも、ワンダー来た！とテンションが上がります。これからも家族みんなでたくさんの驚きと不思議を楽しみにしています。15周年おめでとうございます！

てつ や えつろう  
**鉄矢悦朗**さん（東京学芸大学 教授・建築家）

子どもと大人は区切れません。そのヒトの中で子どもと大人はつながっているからです。子どもも大人も、一人のヒトです。ヒトは割り切れない「奇数」に吸い寄せられる心「好」、つまり好奇心があります。これがワンダーなのです。ワンダーを前進させるためには、行動力が必要です。「ワンダー+行動力」がヒトを進歩させるのです。「どうしてできないのかなあ」「もう少しでうまくいくのに」と「あっ！わかった」「うまくできた！」とワンダーを行動で満たしていくことを繰り返す姿が「あそび」なのです。自らのワンダーが問いを生み出し、行動で答えを導き出す。そんな体験こそが「学び」という社会変化に動じない人生の宝物になります。



と さ のぶみち  
**土佐信道**さん（明和電機・代表取締役社長）

一番面白い遊びとは遊びそのものを考えることです。しかしそれは簡単なようで難しいのです。なぜならばみんなと同じ遊びをすることは安心だし、仲間外れになりません。本当に面白い遊びをしたいならば自分が心の底から面白いと思えることをやってみてそれを徹底的に行い、早く飽きてしまうことが大事です。遊びに飽きしまえばあとは自分で新しい遊びを考えるしかありません。そこからが本当に面白い遊びだと思います。

にし た むつみ  
**西田睦**さん（琉球大学・学長）

わたしにとってのワンダーとは、「いのち」です。自分自身を含め、この地球にいのちをもった生きものがいっぱいいることです。そして、たのしいのは、いろんな生きものについて学び、研究すること。それによって、ワンダーのなぞが少しずつ分かってくる。そうすると、もっと知りたいと、よけいにおもしろくなる。子どもたちも、まわりのもの、ひと、自然と遊びながら、ワンダーを感じ、楽しんでくれればうれしいです。



はぎ わら たけひろ  
**萩原文博**さん（ソニー・MESH開発者）

開発した MESH を活用して子供たちのアイディアから展示物を皆さんの手で作られているとのこと。とても嬉しく思います。MESH はアイディアを自由に形にできるツールです。そして、MESH で遊びながらいろんなアイディアが浮かんでくるはず。これからはいろんなワンダーが生まれる場所であってほしい。

はやし よしひろ  
**林良博**さん（国立科学博物館・館長）

ワンダーミュージアムとはなんですか？博物館や美術館、さらに動物園や植物園もミュージアムの仲間です。「それぞれの博物館における特色を生かした展示は、訪れる人々の知的好奇心に応え、新たな発見と学ぶ楽しさをもたらしてくれます」と、昨年9月に京都で開催された ICOM（国際博物館会議）の開会式で秋篠宮文仁皇嗣殿下がお話されました。偶然にも、沖縄子どもの国・ワンダーミュージアム 15 周年記念のコンセプト OUR WONDER と一致しましたね。



みや ぎ  
**宮城ひとみ**さん（児童デイサービス）

「こどもの国に新しい所が出来たってよ！行ってみる？」そんな会話をオープン当時よくデイの子達と話していました。デイに通う子達は、何かしらの特性をもっている子達。障がいの状態も様々です。なので、私が最初はちょっと不安や戸惑いがあったのも事実。しかし、行ってみるとわくわく！なにこれ？すぞくない？と、職員も子ども達も驚いてばかり。「ひとみさん！ここまで伸びたよ！できる？こんなするんだよ。」小さな先生に変身！表情がとてもいい！やる気にさせるスイッチがたくさん仕掛けられてる！！すごい一言。ワンダーの場は、プラスの言葉がとびかう。誰でもオッケー！大丈夫！心配ないよ。って雰囲気そのものが最高です。

もり た ようへい  
**森田洋平**さん（沖縄科学技術大学院大学・准副学長）

“ふしぎだと思うことこれが科学の芽です  
よく観察してたしかめそして考えることこれが科学の茎です  
そうして最後になぞがとける これ科学の花です”

これはノーベル賞を受賞した朝永振一郎博士の言葉です。ワンダーミュージアムにはその名のとおり、ふしぎがたくさん詰まっています。ここで出会ったふしぎを大切に、考えることを続けていると、いつか学校の勉強がなぞのようになる日があるでしょう。ふしぎ、とは、人生を楽しくしてくれる魔法のスパイスのようなものかもしれません。



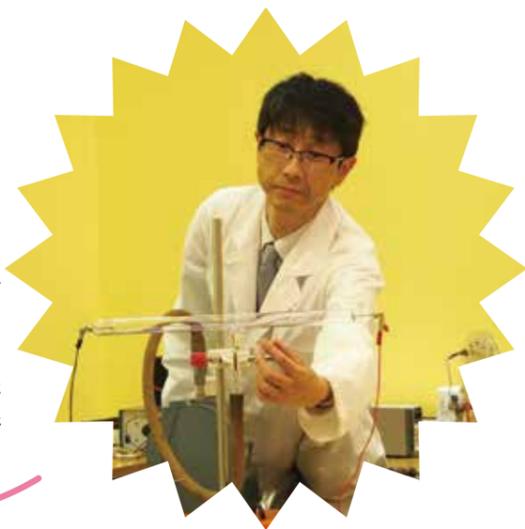


山下 治子 さん (ミュゼ・編集長)

沖縄のミュージアムをいくつか取材してきて思うのは、郷土と  
わらばー(子どもたち)への愛の強さだ。それに感動すると  
伝えると「はあ？」と不思議そうに返ってくる。  
そうして、「ワンダーミュージアム」へ取材に伺うと、なんとテーマは  
子どもたちと「科学、哲学、芸術」を考え、語り、遊ぶことだという。  
壮大かつストレートだ。さらに、さまざまなプログラムは皆で考え、  
館内の工房で、作り、壊し、また創り上げていくというではないか。  
泥臭い、地の底からの力でクリエイティブに溢れている。  
ああ、日本のチルドレンズミュージアムは、沖縄に根付き、  
育っていたんだ。私にとって、まさに wonder! な存在だ。

吉岡 克己 さん (大阪市立科学館・学芸員)

私は、科学館を舞台に宇宙や自然の楽しみを伝えることを仕事に  
してきました。その第一歩がワンダーの発見です。心にワンダー  
が生まれると、そこから行動したい気持ちが湧き出てきます。  
わくわく湧き出る気持ちに従って没頭する時間のなんと楽しいこ  
とでしょう。人生がそんな時間に満たされていたらどんなに幸せ  
でしょう。  
ワンダーからのわくわくは、そんな幸福につながるものだと思う  
のです。ワンダーミュージアムには、きっと幸せな時間につなが  
る驚きがたくさん隠れています。そして、それを発見できる場所  
であるはず。そんな場所に私も関わりたいと考えています。



渡辺 裕樹 さん・種生 芽実 さん・  
根津 あさ子 さん・熊井 晃史 さん  
(とをが)

15周年おめでとうございます！  
ワンダーミュージアムでは、ワークショップを行ったり、  
コンセプトブックにも掲載頂いた俯瞰図を描いてみたり、  
いろんな機会をいただいているチーム「とをが」です。  
東京で子どもたちのアトリエ活動を中心としたギャラリー  
を運営していますが、ワンダーミュージアムがあること、  
続いていることにとても勇気を頂いています。本気で驚く。  
信じる。そこでは、きっと素敵に伝播していく力が生まれ  
ているはず！



ワンダーミュージアム15周年記念

# small talk

～ワンダーミュージアムのはじまりの話～



↑こちらのQRコードから  
ご覧になれます。

ワンダーミュージアムの創設ストーリー  
初代館長・屋比久 功(やびく いさお)さんによるトークの様子をホームページにて  
紹介しています。ぜひ、ご覧ください！



SNSでも、  
ワンダーミュージアムの  
情報を発信中！



沖縄こどもの国 HP : <http://www.okzm.jp>

いろんな展示、  
いろんなワークショップ、  
いろんなプロジェクト。

ワンダーミュージアムを  
いろんな角度から  
お届けしています！

コンセプトブックだけでは  
ご紹介できなかった  
いろんな情報がありますよ(^^)





## こどもたちへ

ここは、いつでもいつまでも  
みなさんのための場所です。

もちろん大人になってもそれは続きます。  
思いっきり、想像力と創造力を羽ばたかせてみてください。

## 大人の方へ

元こどもとして、ぜひ大人の方々も一緒に  
楽しんでいただけると嬉しいです。

こどもたちの可能性への思いもよらない発見があるはずです。

そして、大人自身も思いっきり、  
想像力と創造力を羽ばたかせてみてください。

## 教育関係者の方へ

これからのこどもたちに必要な  
体験や環境を共に探求していきませんか？  
勉強会や研修会などをご一緒しませんか？  
ぜひお気軽にお問合わせください。

! We make our Wonder!!

